

田島祇園祭 ほろ花作り

今年の田島祇園祭の当番党屋は上町上側です。党本は細井信浩さんと星周兵さん。今年も新型コロナウイルス感染症感染防止の為、規模を縮小し神事を中心に行われます。七行器行列は7月23日に男性のみが行い、花嫁姿の女性は参加しないことになりました。

そんな中でも、党屋組の皆さんはほろ花づくりなど、少しずつ祭の準備を進めてきました。6月13日から、毎日数人で集まり、ほろ花を製作しました。家族や、周りの人が安心して暮らせるよう、疫病にかからないようにと願いながら花を作りました。今年はおよそ300本作りました。

小学生 ほろ花作り体験

6月21日、田島小学校5年生がほろ花づくりを体験しました。講師は今年の田島祇園祭党屋組の鈴木節子さん、舟木安子さん、細井舞さん。

昔の祭の絵を見せて「昔からほろ花は祭のときに背中に背負い行列していたね。ほろ花の花は何かな〜?」「祭の頃になると一番上が咲く、たち葵と言われています」等、花の説明からはじまり、ほろ花づくりが始まりました。

はなの台となる薄い紙を型にあわせ切り、次に花びらを切ります。薄い紙を切るの意外と大変。「大事なこと言うよ!」の言葉に耳を傾け、児童らは真剣に取り組みました。

児童からは「はじめは難しかった。楽しかった。伝統を学べてよかった」という声が聞かれました



昔の様子が書かれた絵 ほろ花を背負っている



伊南小学校で田植え

伊南小学校では、毎年、田んぼの学校で米作りや生き物調査などを行っています。

6月9日、5年生が田植えを体験しました。地元、いな夢クラブが協力し、いな夢クラブ、かえるの学校校長の馬場一久さんや、クラブのメンバーが参加しました。6人の5年生は全員が田植えを経験した事が無く初めて、田んぼのどろに入るのも初めて。「どろの中が温かい! 足が抜けない!」などと言いながら、楽しく田植えを体験しました。途中で伊南保育所の子供達も加わり苗を植えました。



靴下を履き田んぼに入る児童ら



保育園児も参加

男女共同参画って?

南会津町では男女が、枠にとらわれず、それぞれの能力を發揮できる、活躍できる社会を目的に、からふるプランを策定。6月18日、講演会が開催されました。講師は星野雅子氏。それぞれの生活をデザインする。仕事をイメージする!という話や提案を聞き、訪れた人は「やる気になった時間だった」と話していました。当日は託児も行われました。小学生はポッチャに挑戦しました。



田島中2年生 SDG's を体験

SDGsとは誰一人取り残されないことが最終目標。SDGsは2015年の9月25日-27日、ニューヨーク国連本部において、「国連持続可能な開発サミット」が開催され、150を超える加盟国首脳の参加のもと、その成果文書として、採択されました。持続可能なゴールとは何か、将来にむけて私たちはどんな取り組みをすればゴールに近づくのか!

南会津町では町の第2期まち・ひと・しごと創生総合計画の中で、人材育成支援事業としてSDGsについて取り組んでいます。5月31日と6月1日、この人材育成事業の一つとして、館岩中学校と田島中学校でSDGsの講座を行いました。

1日、SDGsの講座は、田島中学校2年生を対象に行われました。SDGsは17の分野に分かれています。17の目標には経済や環境など多岐にわたる目標がありました。

例えば 赤で表示されるno poverty貧困をなくす。あらゆる場所であらゆる形態の貧困に終止符をうつことが目標とされています。

それぞれの目標のために何をすればよいか。ゲームで体験しました。カードが数枚渡され、挑戦したい事業のカードを選びます。お金を使って、建物を建てる。製品ができる。安く使える。安く食べられる。しかし作っている国は貧しい。原料をとると森林が伐採される。時間はあるがお金がない。お金はあるが時間がない。など行動を起こした場合のプラスマイナスを体験します。

生徒らは一つの事業に挑戦するとその対価を払ったり、対価に代わりポイントをもらったりしながらゲームを体験しました。

生徒からは「買い物にエコバッグを持っていたり、原材料や原産国を確かめてから買い物したい。」「一つの事業ばかりしても世界は回らないことを実感した。貧困を初めて考えた。お金と時間を交換して事業を成功させたことが楽しかった」などの感想が寄せられました。



外務省HPより



カードでゲーム
経済・環境などの事業を達成
するとポイント増える。減る場合もある

